

ガイジャトラ (牛祭り) 牛に連れられ死の国へ

8月29日カトマンズ盆地で「ガイジャトラ」が行われました。ガイジャトラは「牛祭り」と言う意味で、過去1年以内に亡くなった人が難なく三途の川を渡り死後の国に行くことを願って家族が牛を型どった御輿を作り、町を練り歩くネワール族のお祭りです。死者は、ヒンズー教で一番聖なる物とされる牛のシッポを掴んで三途の川を渡ると考えられているため、牛を型どった御輿を作るそうです。そのやり方はカトマンズ、パタン、バクタプールと場所によって違い、中でもバクタプールというカトマンズから車で東に40分くらいにある町が一番見ごたえがあるということでガイド付きのツアーに参加し、見学に行きました。

バクタプールに着くと大勢の見物客がおり、人混みを抜けて御輿が見える場所にたどり着くと、20名位の男の子達が手にした棒を互いにぶつけながらやってきて、その後にアイスクリームコーンを逆さにした形にてっぺんに角やシッポを付け、死者の写真を飾った御輿がやってきました。御輿の色は白、赤、黒があり、男性は白、夫より先に亡くなった女性は赤、夫より後に亡くなった女性は黒と決められているそうです。この山車は4人の男性に担がれて町を練り歩きます。裕福な人は、棒を打ちならす代わりに楽隊を先導させていました。時々、女装していたり、シバ神とその妻パルパティに扮した男の子が一緒に行進していて、目を楽しませてくれました。ガイドに理由を訪ねたら、死者が変な誘惑にのって脇目を降らないようにということでした。なかにはキスをしながら行進していく男の子もいて、この時とばかりに羽目を外しているように思えました。この棒を打ちならすのはなかなか激しく、間近で見ているとその棒がこちらに飛んできそうでした。事実、時々棒でぶたれたとって喧嘩が起きたり、流血している人もいました。

またこの日は、どんな政府、世相批判をしても良く、この日の前後しか販売しない風刺漫画雑誌が出ます。そのためかプラカードを持ち青年がデモ行進していました。

しかし、これはネワール族のお祭りなので、他の民族、例えば我が家のKC等はチェットリーカーストなので、こうしたお祭りには参加したことがないそうです。(美澄)

もういくつ寝るとダサイン休暇 私をトレッキングに連れてって!

ネパールで働いていて何がいかと聞かれれば、乾季の入り口の10、11月にダサイン、ティハールというお祭りに伴う大型連休があることだ。私は1年前、丁度ティハール休暇の前日に着任しており、ダサイン休暇を未だ経験していない上に、ティハール休暇は右も左もわからずカトマンズで過ごし、おまけに腹をこわした。この間殆どの所員が国内にトレッキングに出かけて、私はその時の写真を後で嫌ほど見せられ、自分の運命を呪ったものだった。

そう、間もなく着任1周年を迎える私がまだ唯一経験していないのがダサインなのだ。次の一時帰国まで10カ月以上残っている私は、5月以来ダサイン休暇をずっと心の支えにしてきた。絶対トレッキングに行ってやる。前回一時帰国した時に、「なんだ未だトレッキング行ってね〜のか。」とおっしゃったあなた、大変お待たせしました。10月19日〜28日の9連休、私達はポカラを起点に、アンナプルナ、マチャブチャレ、ダウラギリ峰を間近に見るトレッキングに行く。ポーターにコックも付けて、テントで生活する大名トレッキングである。市内の旅行代理店には、日本語ペラペラのネパール人がいるところもあり(「健脚」とか「膝が笑う」とかいう表現まで知っていたのには驚いたが)、非常に助かる。

この時期は、休暇前に使用人達に1カ月分相当のボーナスを払う。ネパール人にとっても楽しい季節だ。皆、これがあるからやってられるのだと思う。でも、折角のボーナス、少しは貯金もして欲しい。

さて、ネパールもようやく雨季が開けた。これから3月まではトレッキングのシーズンである。皆さん、是非おいで下さい。来るならこれからですよ!(浩司)

見上げてごらん夜の星を カトマンズ初の天文台オープン

9月27日、サネパから程近いアクシェシュワル仏教寺院の屋上に建てられた天文台の開所式に出席した。天文台といってもトタン屋根の小屋に天体望遠鏡を設置しただけの簡素なものだ。寺院の近所にある治水砂防技術センターに勤める天体マニアのJICA専門家等が寄贈したもので、式典には観光省大臣や飯田公使が参列して盛大に行われた。

日本では今では天の川を見ることすら難しいが、いかに大気汚染が深刻なカトマンズとて、まだまだ夜の空は澄んでおり、街の灯も少なく星がとともきれいに見える。これが盆地の外輪にあるナガルコットやドゥリケルならもっとすごいに違いない。カトマンズで観るものは古くからある寺院くらいだが、この街に天文台を造ったら夜の観光スポットして人気を呼ぶだろうと前々から思っていた。利用料を取れば維持管理もしっかりできるだろう。また、星は子供たちの創造力を育てられるだろう。理科の実験道具も整備されていない学校の生徒は、今まで天文についても教科書の丸暗記を強いられてきたが、こうした天文台を有効に使って、理解を深めていってほしいものである。

さて、この式典の最初には仏教教典の唱和がなされたが、「ブタン、サラナン、ガッチャーミ……」と参列者が唱えたのには驚いた。日本でよくお寺の住職から聞かされた唱和だ。この国はヒンドゥー教の方が盛んであり、仏教徒を見かけることはあまりなかったが、この夜ばかりは世界共通の仏教の底力を実感させられた。(浩司)

私の仕事紹介（その7）「バンド」ってなんだ？ その傾向と対策

ネパールが今熱い。9月13日、JICAが日本ネパール国交樹立40周年記念写真展を開催しているおりもあり、共産党系列の「統一左翼戦線」が主体となり、全国ストライキ「ネパールバンド」が実行された。

ネパール極西部のインド国境のマハカリ川の水資源及び電力資源のインドへの供給に係る条約が、極端にネパール側に不利な内容（インドの援助で建設されたダムにより、電力の何パーセントかはインドに供給せねばならないとか、乾季の水が必要な時にインド側の都合で水門を開けなければならないとか、ネパール領内にインド軍を常駐させるとか）であることに抗議し、さらに共産党系列のマイナー政党が自己の存在を現政権にアピールすることが目的だと言われる。

バンドとなると、普段は大人しいネパール民衆も時には暴徒と化して、車両に投石したり火を放ったりする。私は過去に2回バンドを経験しているが、バンドの時は通勤も徒歩（約30分）にする。マイナー政党のバンドは過去の実験では大規模なものとはならず、テンプーやタクシーくらいは走るだろうと思っていたが、今回は1カ月以上前から実施が伝えられ、町中にバンドへの参加を呼びかけるポスターが貼られ、ラトナパーク周辺では集会も頻繁に開かれており、気合いの入りが違うと感じた。この日は写真展会場係となっていたため事務所から会場まで行く必要もあり、今度ばかりは私も自転車を買って、通勤に使うことにした。バックパックを背負い、ヘルメットをかぶり、颯爽とMTBを走らせるのは気持ちが良い。

幸い、大きな暴動は起きなかったようだが、9月15日付カトマンズポスト紙にネパールバンドの調査結果が掲載されていたので紹介しよう。全国で600人にアンケート調査を行ったところ、40%の人が（民主主義の回復を目標とすべき）ネパールバンドは安易に行われるべきでないと答えた。50%の人は、国の経済活動を完全停止させてしまうネパールバンドが、この国にとって不利益をもたらすと答え、5%の人は皮肉混じりに、燃料の節約になり、交通量が激減し、大気汚染は減少し、不必要なゴミが出されないという点では、バンドも良いと答えた。普段車で渋滞するカトマンズの道路が自転車とバイク、そしてリキシャーの天下となり、空気も澄んでいるように感じた。

さて、このマハカリ条約であるが、最大政党である野党UML（共産党）の批准賛成で、総議席数の2/3の賛成票を集めて9月20日に国会で可決された。すると今度は22日にバンド実施、国会で力のない政党はすぐにラディカルな手段に出る。ネパール人は基本的にインドが嫌いであるため、現連立政権は対インド弱腰外交と非難もされているが、こうした現実的対応も必要なのではないかと個人的には思う。皆さん落ちついて下さい。（浩司）

ティーズとパンチャミ 女性の祭り

「ティーズ」（9月16日）と「パンチャミ」（9月17日）は女性だけが行うお祭りで、オフィスでは女性だけ休みです。

「ティーズ」は、ヒマラヤ王の娘バルパティ神が、父の決めた結婚式の前夜に脱走し自分の好きだったシバ神に妻として迎えてもらったことにあやかり、バフンとチェットリカーストの女性が既婚者は夫の長寿と繁栄、未婚者は良い伴侶を得ることを、丸1日断食をしてシバ神に祈る日です。

当日カトマンズでは、カンカン照りの中まっ赤なサリーを着た女性が水すら飲まずに歌ったり踊ったりしながらゾロゾロとシバ神を奉るパシュパティナート寺院に向います。パシュパティナート寺院の境内に着くと、赤いサリーを着た女性の列がずっと続き、その横では物売り、ティカ（顔に赤い染料をつけること）を与える僧侶、それにカトマンズ中の物乞いが並び、かなり賑やかです。女性達は、シバ神への捧げ物を携え、自分の番が来るまで約3時間、割り込みをされないように気を付けながらずっと並んでいるのです。ヒンドゥー教徒以外は寺院の中に入れないので、寺院に面したバグマティ川の対岸から中の様子を見ると、寺院の中は女性で一杯で壮観でした。参拝者は早朝から夜中まで途切れることはなく、夜中の参拝者はバグマティ川で水浴をし夫の長寿と繁栄を祈りながら360回水を浴びるそうです。

「パンチャミ」は生理がある女性が過去1年に犯した罪（生理中に料理し家族等に食べさせた等）を神に祈ることによって購う日で、私の家から徒歩約40分のところにあるシバ神を表した小さな石へお祈りします。この日もティーズ同様早朝から女性はずっと列をなし、祈りの順番を待ちます。こちらは、ヒンドゥー教徒以外にも中に入れるということだったので、私は使用人のシータと一緒に切符（列に並ばなくてもお参りできる券）を持って見に行きました。

お寺に近づくとティーズ同様、女性の長い列（未亡人は黒いサリー、それ以外は赤いサリーを着ている）と、その横で物売り、ティカを与える僧侶、カトマンズ中の物乞いが並び、所々歌い踊る人もいて、とても賑やかです。私達は切符を持っていたので、列に並ばずに、神様の所まで行き、近くで様子を見るのが出来ました。

参拝は一瞬で、自分の番がきてひざまずきその石に頭を付けたかと思うと、両脇から整理の人に押しのけられ次の人の番になるというあっけないものでした。しかし、それでも信心深いネパール女性は、大勢来るのです。（美澄）

編集後記

★今、カトマンズの日本人社会では、ブータンの松茸がちょっとしたブームです。ブータンの松茸生産はJICAの技術協力の成果。カトマンズでは、ホテルサンセットビューで1kg100ドルで販売中とのこと。私達も少しお裾分けをもらうことができ、「松茸だ、松茸だ。」と歓喜したのもつかの間、ふと考えてみたら、松茸なんて子供の頃損斐か谷汲の山へ松茸狩りに連れて行ってもらって以来で、どう調理するのか、どう保存するのかも知らず、途方に暮れてしまいました。こんな機会に松茸を賞味できるのは有り難いことではありますが、味も香りも全然覚えておらず、一体どうして日本人が松茸、松茸と騒ぐのか不思議でなりません。でも、それもコンビニ世代の私達の貧しい食文化に原因があるのかも。自分の味覚が貧弱なのでしょう。（浩司）

★乾季と雨季の境の日（今年は8月19日）からお祭りが目白押しです。今回取り上げなかったお祭りの他にも大小様々なお祭りがありました。民族ごとにお祭りも違いますが、宗教が生活の一部になり信仰を大切にしているネパール人に昔の日本を見る様な気がします。しかし、「お祭りばかりやっているからお金が貯まらないのよ。」と言う友人もいますが・・・

なお、この通信に書いてあることは自分の知識の範囲なので、間違い等にお気づきの場合はご指摘下さい。（美澄）